

# 旧金砂郷町 ここ50年の変貌

## 1972年と2022年の人口密度と学校数の減少から

### 調べる方法

まず、町別別の人口を調べるために市役所の情報課に問い合わせたり、図書館にも足を運んだりしました。しかし、1970年代の資料が見つからず途方に暮れていたところ、かつて役場に勤めていた近所の方から資料を借りることができました。その資料を基に作成しています。また、現在の様子について、写真を撮りました。

### 調べた理由

2022年9月に旧金砂郷町内の3つの小学校(久米小・郡戸小・金砂郷小)が統合して4月に「新」金砂郷小学校が誕生しました。旧金砂郷町内の小学校は1校となってしまいました。以前は金砂小もありましたし、中学校も北中と南中の2校が長く存続していましたが、2015年には金砂郷中1校となっています。そこで、50年前の1972年と2022年の町別別に人口や人口密度を調べて地図に表すことで皆さんに問題提起したいと考えました。

小学校 5校+分校1校  
中学校 2校

### 1972年

### 人口密度 (1km<sup>2</sup>の人数)



### 2022年

人口密度を比べて

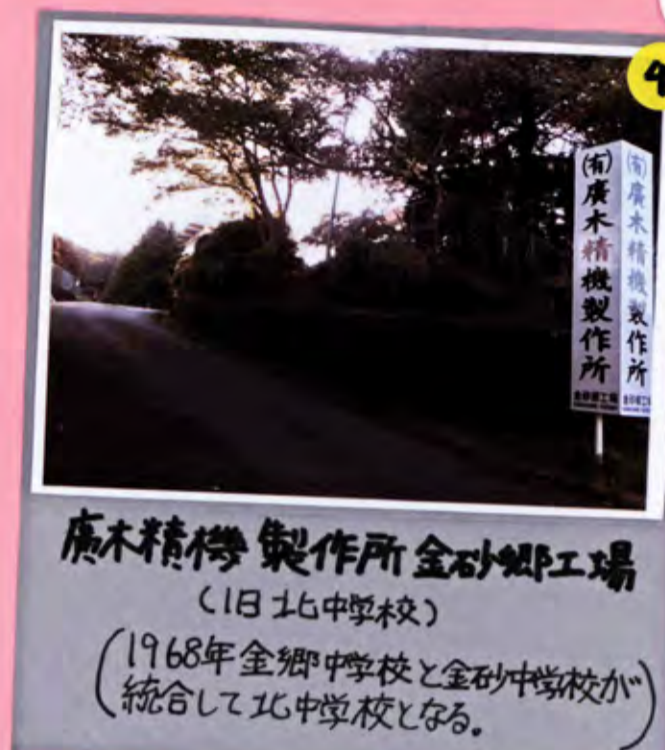
まず、人口密度が減少している所が多いことに気づきました。  
旧金砂地区(上宮河内・赤土・下宮河内・上利員)と千寿の人口密度の減少率が大きいです。特に、下宮河内と上宮河内は1/3に、赤土は1/4にまで減少しています。この地域は、山林が多く、かつては薪ばたの栽培が盛んで、その薪「常陸松」をこの産地として注目されました。金砂郷のときに、振興策として「そば工房」や「金砂の湯」などが建設されました。しかし、市への吸収合併や交通の便が悪いこと等が重なり、人口減少に歯止めがかけられませんでした。空き家も目立ちます。その他の地域もほぼ減少しています。少子化と若い人の就労の状況や世帯人数の減少などがあるのでしょうか。

次に、ほぼ横ばいなのが竹倉と笑ですが、ここは市の工業団地の造成によりそれぞれが山が谷の間に移動していったため、面積が相当減少しているのでも単純には比較できません。

そして、増加したのは、兼谷・大里・大平の3つです。兼谷は農道166号の開通により、業者によって小規模の団地がスプロール的に開かれました。大里は、森林が切り開かれ、県営アパートの建設や小規模団地の造成が行われ、大平もアパートや小規模団地が作られ、結果として人口密度が高まりました。



小学校 1校  
中学校 1校  
幼稚園 1園  
認定こども園 1園



### 村 → 町 → 市

金砂郷村 → 金砂郷町 → 常陸太田市  
町村合併促進法を受け郡戸・久米・金砂郷・金砂が合併し金砂郷村が誕生しました。各地域とも他市町村との合併を希望する意見も強く、紛糾しましたが、1955年4月15日に金砂郷村として発足しました。新村名については「双川村」の名にもあつたが議会で決まりました。「かなさごう」という響きは温かみがあり、柔らかく、よい地名であるように思う。そして、1993年に町制に移行し、2003年に常陸太田市・金砂郷町・水府村・里美村が合併し新「常陸太田市」となる。

### 中学校合併説明会に参加した人の話

金砂郷小の保護者として参加しました。交流センターぶじにはたくさんの方が集まり、市町村合併を見据えて、金砂郷町として新中学校の建設を打明けたということも町長自ら真摯な態度で説明していただきました。場所は、町有地である今の大方スポーツ場が提案されました。それに対して、南中の保護者が猛烈に反発。小島の生徒は12kmも通うことになる。その時金砂の生徒は後に12kmを超えて北中に通学しているのにと思いました。また、太田中や峰山中に通学してもよいかと質問もしていました。教育熱心だが、地域のエゴがむき出しで後味の悪いものでした。南、北中の保護者からは、中学校の敷地の中を道路が分断しているという指摘があっただけでした。小中学校も合併した現在、旧金砂小の児童の中には、40分もバスにのられる子、バス酔いする子などいるとのこと。効率化のしわ寄せが子どもにいかないようにはできないのでしょうか。



### 感想

人口密度が減っているところが、びりりしました。青色で表現しながら、何でこんなに減ったんだろうと悩んでいました。古い写真を見て、第1や第2、分校などいろいろと分けて住んでいたのにも思いました。今は一部地域に集中して住むので、その近くの学校が残ることになります。大人は、どうも効率化を追い求めて、子どもをどうとらえているので、大人にとらえ、自分たちが未来をよりよく変えたいと信じて学んでいく必要を感じました。(美留)

学校がなくなると子どもも少なくなることを知って、1校だけになりました。これからは子どももかかるとはもうのうかにも感じになりました。人口みっけは、むしろいいと思いました。(美留)



### 考えたこと

学校数の減少は人口密度の減少と関係がありました。これは、町別に細かく調べたことにより、はじめてわかりました。人口(子ども)減 → 学校減 → 人口(子ども)減 → 学校減となり、どんどん拍車がかかり、小・中とも1校になってしまいました。(2022年4月)同時に、関係話や私の実感から、学校減により地域社会(例えば、地域の伝統芸能や子ども会、自治組織、等)の成立が困難になりつつあるのではないかと、とても大きな問題だとも感じます。

ところで、中学校はある程度人数がいれば活動や学習が活発にできない気がしますし、複数の小学校が集まることで新たな出会いを期待してはいますが、その点、小学校は、規模が小さくてもいいように思います。みんなは、このことについて、どのような考えなのか率直に意見を聞いてみたいです。小学校ごらいは、自分で歩いて体力がついたし、友達と楽しく話して、通わせてあげたいです。



### 1972年と2022年の1kmあたりの面積及びその増口・減少率

	1972年	2022年	2022年/1972年(%)
久米町	304人	150人	49% ↓
兼谷町	302人	170人	56% ↓
大里町	267人	478人	179% ↑
大平町	103人	180人	175% ↑
玉造町	295人	61人	21% ↓
高神町	295人	5人	2% ↓
竹倉町	159人	190人	120% ↑
大里町	267人	150人	56% ↓
兼谷町	302人	790人	261% ↑
新地町	284人	166人	58% ↓
松菜町	254人	203人	80% ↓
中野町	392人	187人	48% ↓
小島町	310人	155人	50% ↓
高神町	325人	236人	73% ↓
大里町	267人	478人	179% ↑
竹倉町	159人	190人	120% ↑
大里町	267人	245人	92% ↓
下利員町	186人	124人	67% ↓
中利員町	146人	70人	48% ↓
千寿町	120人	47人	39% ↓
箕野町	214人	179人	84% ↓
岩手町	267人	67人	25% ↓
玉造町	295人	61人	21% ↓
高神町	325人	5人	2% ↓
上宮河内町	98人	31人	32% ↓

↓ 50年間の減少 ↓ 減少 ↑ 増口 ↑ 2022年/1972年

中学校の統合について  
久米中と郡戸中が南中に、金砂中と金砂郷中が北中になりました。しかし、名前も変わりましたが校舎が完成するまでは、それぞれの場所ですてんしていました。

古い写真は、1972年9月の「かなさごう」より

人口密度の算出方法  
1972年は「かなさごう」1972.9より  
2022年は常陸太田市ホームページ常住人口の町別人口と人口統計より町別面積で算出